
零崎哀識の人間遊戯

零崎哀識

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

零崎哀識の人間遊戯

【Nコード】

N5887N

【作者名】

零崎哀識

【あらすじ】

零崎 哀識

人類最強の名前の一文字を持つ者

それは、読書家の名

それは、請負人の名

それは、殺人鬼の名

これは、

そんな、人類最高の物語

姉の依頼（あれ以来）（前書き）

処女作です。

駄文ですが、読んでください。

姉の依頼（あれ以来）

自分は、普通だと思っていた。

世界は、不変だと思っていた。

日常は、崩壊しないと思っていた。

あの頃までは、あの日までは、あの瞬間までは。

.....

「あーあ、かったりーなー。」

白髪で、長髪の少年が呟いた。

真っ赤に染まった部屋をあとにしながら。

ブルルルルルル。

「最悪だー！ー！ー！ー！」

潤姉からかよ。出たくねーなー。

でも、出ねーと後で大変な事になっからなー。」

少年は、しびしびケータイにでた。

哀川潤（以降 潤と表記）

「おい、哀識。てめえ、どんだけあたしを待たせる気だー！ー！この愚弟がー！ー！」

零崎哀識（以降 哀識と表記）

「潤姉、無茶言わないで下さいよー。」

今、図書館にいたんですからー。」

ケータイ使えないんですからー。」

潤

「そーかー、それじゃあ、しょうがないなー。あたしは、てっきり、

「あたしと関わるとめんどろな事になりそうだなー。」とか、

考えてるのかと思ってたんじゃねーかと思っただが、まさか、美人なお姉様にそんなこと思っただけじゃねーよなー？」

哀識

「そんなこと思う訳ないじゃあないですかー。（汗）」

美人な潤姉様にそんなこと思う訳ないじゃあないですかー。」

潤

「そっだよなー。」

じゃあ、困った美人なお姉様の頼みごとを聞いてくれるよなー？」

哀識

（最悪だな、聞かなかつたら何されっかなー。）

潤

「あー、断ったら……女そ「やらせてもらいます！」

そーか、そーか。

姉さんいい弟を持って嬉しいぞ！」

哀識

「はー、潤姉、それで俺は何をしたらいいんですかー？」

潤

「くそ親父が、

また、世界征服しようとしてやがるから、手伝え。」

哀識

「人類最悪の遊び人がですかー！

それなら、いー兄を呼べばいいじゃないですかー。」

潤

「あいつも呼ぶよ。

あと人識と真心のやつも呼ぶよ。」

哀識

「俺まで、必要ありますかー？」

潤

「気分だよ、気分。」

哀識

（気分かよ。）

潤

「てなわけで、いーたんのところに集合な！

それじゃ。」

ガチャ

哀識

「……………いつ集合か聞いてないんだけど。」

作戦会議（錯乱怪奇）（前書き）

会話文ばっかになっちゃいました。

作戦会議（錯乱怪奇）

哀識

「ちきしょう。やっと着いたか、くそ眠い。」

昨日、連絡が届いてから、不眠で向かった、哀識。

哀識

「いー兄、哀識です。今、着きました。」

いー兄

「開いているから、入って来て。」

哀識

「はい。」

ガチャ

ドアを開けると、女装したいー兄と人兄が縛られていた。

ボタン

哀識

「おっかしいな。寝不足だなー。では、もう一度。」

ガチャ

やはり、女装したいー兄と人兄が縛られている。

哀識

「おじやましたー!」

ダッシュで逃げようとすると、腕をつかまれ、部屋にひきづりこまれた。

哀識

「ぎゃー!」

潤

「逃げるなよ。借りてきた衣装が、まだ、沢山あるんだからよ。」

哀識

「潤姉!?話が違うじゃないですかー!頼みを聞くんだから、女装はさせないはずじゃあ。」

潤

「誰も手伝ったら女装させないと、言ってなかっただろ。」

哀識

「卑怯だー!」

いー兄

「さあ、一緒に女装しよう。きつと、似合うから。」

零崎人識(以降 人識)

「哀識、てめえだけ、逃がすと思うな。」

潤

「じゃ、そういって。」

哀識

「ぎゃー!」

結局、女装させられました。

哀識

「で、人類最悪の話は、どうなったんですか？」

現在、潤姉と女装したいー兄、人兄、俺という異様な状況になっている。

潤

「あー、くそ親父が世界征服のために、「七つの大罪」とか、いうのを作っただらしい。」

哀識

「ふーん、大層な名前ですねー。」

いー兄

「僕のところ、挑戦状が届いたんだよ。」

哀識

「はぁー！？！どこの少年マンガだよ！」

いー兄

「それに、真心をさらっただらしいんだよ。」

哀識

「あつ、真心姉が居ないのは、そういうわけか。」

いー兄

「だから、あいつを助けないとね。」

哀識

「じゃあ、とつとと行きますか。で、どこにいるんですか？」

潤

「先月つぶされたランドセルランド」

人識

「ランドセルランド。あそこが、てっ、潰れたじゃなくて、潰された？」

哀識

「人兄、行ったことあるんだ？」

人識

「ああ、兄貴のデートの護衛で。」

哀識

「何やってるんですか。」

潤

「おい、話を戻すぞ。そのランドセルランドをくそ親父が潰して、拠点にしてるそうだから、小唄のやつに送ってもらっぞ。」

哀識

「はい。いつから、行くんですか？」

潤

「今から。」

ブロロロロ。

へりの音が聞こえてきた。

哀識

「いくらなんでも、急すぎでしょ！着替えてないし。」

潤

「そのまま、行けばいいじゃん。」

哀識

いー兄

人識

『ふざけないで下さい（るなー）！』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5887n/>

零崎哀識の人間遊戯

2010年10月9日02時16分発行